

さらなる可能性に向けて 挑戦する茨城県を目指して

茨城県知事 大井川和彦氏



「新しい茨城」を創る

私は今後、新しい茨城を創るために、「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい夢・希望」「新しい人財育成」の4つを政策の柱に掲げています。「夢・希望」は、長期的な政策になるため、今すぐにも種まきが必要だと考えていますが、なかでも茨城の将来を決めるカギは「新しい豊かさ・豊かな仕事を作る」にあると考えます。

どんなに規模が小さくても「尖がったベンチャー企業」が茨城に誕生し、世界を相手に勝負する大企業に成長することができれば、世界中から優れた頭脳と行動力を持つ若者が茨城に集

まってくる。そして、その勢いが地域経済へと波及することで、茨城県の税収が増え、社会保障やインフラ整備が充実し、さらに人口も増えていく。つまり、「正の循環」が生まれるのです。この新しい流れを大きくするためにも、「新しい安心安全」「新しい人財育成」もこの正の循環に入らなければ、確かな前進につながりません。

これからの時代は プログラミングと英語

子育てや医療の充実はもちろん、女性の活躍も忘れてはなりません。社会の中心はいうまでもなく「人」です。「女性は家にいるべき」という日本の旧態依然の考え方を改め、女性も努力

をすればチャンスをもたらえるという成功事例を数々見てきました。女性が活躍する社会も茨城がさらなる成長を遂げる大きなカギであります。

そして、グローバル社会で通用する「人財育成」についても、さらに力を入れていきます。それが「プログラミング」と「英語」のスキル向上です。すべてがコンピュータにつながる現代において、「プログラミング」の能力は重要されることに違いありません。同様に、日本の人口減少が深刻化し、経済規模が相対的に縮小していくなかで、やはり「英語」を駆使して海外と関係を持つことで、はじめて高収益を生み出せるのです。

もちろん子どもたちにもこれらを義務化しようとは思っていません。意欲のある子どもたちが学べるチャンスや環境を作るのが私の役目であり、他県に先駆けて茨城ならではの教育環境を整備して

いこうと考えています。これが実現すれば、「第2のビル・ゲイツ」のような優秀な人材が茨城から誕生することも決して夢物語ではないでしょう。

今の茨城に必要なのは 「どう売るか考えた農業」

さきほどの尖がったベンチャーと聞くと「最先端技術」を持った企業をイメージする方もいると思いますが、決してそんなことはありません。たとえば、きちんとしたマーケティングを行ったうえで、作る品種や販売方法も工夫するなど、優れた経営感覚を持つ「農家」もそれに当てはまります。これからの時代は「どのようにして売るか」という点を意識して、きちんと戦略を立てて経営しなければなりません。「作って終わってしまった状態」から、「顧客創造ができる農家」へ、すでに具体的に動いている農家の

皆さんとお会いでき、大きな可能性を実感しています。

私はこうした新しい挑戦を後押しするために、国内外の市場開拓販路拡大を四六時中考え、行動する部署を作りたいと思っています。そうすることで、茨城県独自のまったく新しいノウハウが県に蓄積し、新たなビジネスチャンスが訪れ、「大きなビジョンを持った儲かる農業」に成長するのではないのでしょうか。

可能性を信じて行動する 挑戦意欲を持った茨城県民

私は、選挙期間中に県内各地を回っていたなかで、県民の皆様から「今の茨城県は閉塞感が漂っていて、正直将来が不安です。この状況をなんとか変えたい」という前向きな声があった一方で、他地域に対する妬みや嫉みといった残念な声も寄せられました。そ

れがたとえば、県北の方に話を伺うと、「茨城県は県南ばかりに予算を使っている北は見放されている」といったネガティブな声です。このように限られた予算というハイを奪い合うだけでは建設的な議論ができません。茨城が生まれ変わるためには、県民一人ひとりが夢や目標を抱き、そこに向かっ自分がかを今をしなければいけないのかを考え、「努力と挑戦をすること」が必要不可欠です。

これまで私は、官民さまざまな職場を経験してきたなかで、「諦めない」「自ら変わる勇気を持つ」「常識を疑う」この3つの信念で仕事を進めてきました。この信念のもと茨城は生まれ変われると強く信じています。県民の皆様が変わる勇気を持ち、一人ひとりが自分たちの可能性を信じて一緒に前に進んでいけば、必ず大きな可能性が広がると確信しています。



上/初登庁で大勢の職員に迎えられる大井川知事。
下/大井川知事を表敬訪問した笠間市の粟生産者の方々から説明を受ける様子。



大井川 和彦

OIGAWA KAZUHIKO

1964年(昭和39年)4月3日、土浦市生まれ。日立市立宮田小学校、茨城大学教育学部附属中学校、茨城県立水戸第一高等学校、東京大学法学部卒業。ワシントン大学ロースクール修了。1988年、通商産業省(現・経済産業省)に入省。その後、マイクロソフト、シスコシステムズ、トワンゴを経て、2017年に茨城県知事選に出馬、当選を果たす。同年9月26日に就任。
座右の銘:Where there's a will,there's a way(意思があるところに道は開ける)
家族:妻・娘
趣味:読書、音楽鑑賞、ゴルフを始めとしたスポーツ全般。お酒は焼酎をたしなむ。また、食べることも好きで、「茨城のお米・干し芋は本当に美味しいですね」と茨城の魅力の語り部でもある。

第2のビル・ゲイツを 茨城から輩出する！